

哲学・倫理学の輪郭を(ざっくり)つかむための読書ガイド 2018

1 事典・用語集

- 永井均ほか編『事典 哲学の木』(講談社, 2002)
- 廣松渉ほか編『岩波哲学・思想事典』(岩波書店, 1998)
- 大庭健ほか編『現代倫理学事典』(弘文堂, 2006)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『哲学の道具箱』(共立出版, 2007)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『倫理学の道具箱』(共立出版, 2007)

2 哲学・倫理学の諸テーマ

- 門脇俊介『哲学教科書シリーズ 現代哲学』(産業図書, 1996)
- 野矢茂樹『哲学・航海日誌』〈1〉〈2〉(中公文庫, 2010)
- 麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群 もう一度考えてみること』(ナカニシヤ出版, 2006)
- 戸田山和久『哲学入門』(ちくま新書, 2014)
- ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学 安楽死からフェミニズムまで』(晃洋書房, 2003)
- 品川哲彦『倫理学の話』(ナカニシヤ出版, 2016)
- 佐藤岳詩『メタ倫理学入門』(勁草書房, 2017)

3 個別の哲学者たちについて

- 『哲学の歴史』全12巻+別巻(中央公論新社, 2007-2008)
西洋哲学史に登場する主要な哲学者がほぼ全て網羅されているだけでなく、近年の研究状況を反映した記述になっている。巻末の文献ガイドが非常に役に立つ。専門的に研究をしたいひとは必携。
- 貫成人『図説・標準 哲学史』(新書館, 2008)
あっさり目だが読みやすい。著者は哲学史の入門ガイドを数多く出していてどれも面白いが、これがスタンダードだろう。
- 田辺秋守『ピフォア・セオリー 現代思想の争点』(慶應義塾大学出版会, 2006)
20世紀後半以降のフランスやドイツの現代思想や批判理論は多くの前提知識を必要とする難物だが、この本は整理が行き届いており、実際に現代思想家の本を読む前の下図を提供してくれる。
- 堤林剣『政治思想史入門』(慶應義塾大学出版会, 2016)
倫理学の歴史を学ぶには政治思想史の知識もあった方がよい。この本はルソーまでしか扱っていないが、その分一章ごとの密度が濃く、二次文献の情報も充実している。
- 柘植尚則『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』(粹出版, 2016)

プラトンからロールズあたりまで、高校倫理で大きく取り上げられる哲学者の思想の概説書。基礎的な人名や概念の学びなおしに最適。

4 勉強に役立つシリーズもの

- 〈一冊で分かる〉シリーズ (岩波書店)
オックスフォード大学の Very Short Introduction シリーズを和訳したもの。歴史、宗教、政治、自然科学、人文科学、哲学といった幅広いテーマに対応している。初学者向けだがレベルは落としていない。同じ出版社から〈哲学がわかる〉シリーズが出ているが、同じシリーズと考えて差し支えない。
- 〈現代哲学への招待〉シリーズ (春秋社)
青、赤、紫、緑に色分けされているが、初学者向けの青色の装丁のものをまずは読むことを勧める。
- 〈哲学のエッセンス〉シリーズ (NHK 出版)
主要な哲学者の名前ごとに刊行されている。総じてかなり癖が強いが、読み応えがある。

5 勉強法・思考法・アカデミックスキル

- 戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK ブックス, 2012)
- 伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』(ちくま新書, 2005)
- 小野田博一『13 歳からの論理ノート』(PHP 研究所, 2006)
- 大出敦『クリティカル・リーディング入門』(慶應義塾大学出版会, 2015)
- 森靖雄『大学生の学習テクニク』(大月書店, 2007)
「大学の授業は高校までとは違う」ということを受験生や大学新入生はうんざりするほど言われるが、具体的にどう違うのかということのをこれらの本を読みながら自分で考えてほしい。早い段階で読んでおけば素晴らしいスタートが切れるはず。

6 本の選び方

- 日本の新書は本当に玉石混淆で専門外のひとがとんでもないことを書いていたりする。自分の感覚だと、中公新書=NHK ブックス>ちくま新書>岩波新書=講談社現代新書 という順で良書が多い。講談社現代新書はやたらに数が出ているが、本当に玉石混淆。これ以外の新書(角川、PHP、文春など)は勉強目的で使うのはかなり慎重になる必要がある。
- 大学生がある分野について基礎知識を得たい場合、まずはつまらなくても教科書を読んでみて、そこにしているブックガイドを参考に読んでみるのが重要。良心的な教科書はブックガイドも充実していて、初学者向けから中級者向けまでフォローしているはず。その際の教科書は出来るだけ新しいものを選ぶ。分野によっては 1990 年代のものでも古い。
- 信用の出来る著者、出版社、レーベルなどについての自分なりの基準をもっておく。amazon レビューなどを使って評判を調べるのもいいが、ベタ褒めの☆5 や極端なこき下ろしの☆1 は無視して冷静な視点のレビューだけを信用すること。
- よい卒論を書こうと思ったら入門書や新書だけでは不十分。日本語のものでいいから学術論文も読んでみる。慣れてくると本よりずっと読みやすい。cinii という便利なサイトがあり、そこにキーワードを入れて探す。新しいものを優先して読んでみましょう。